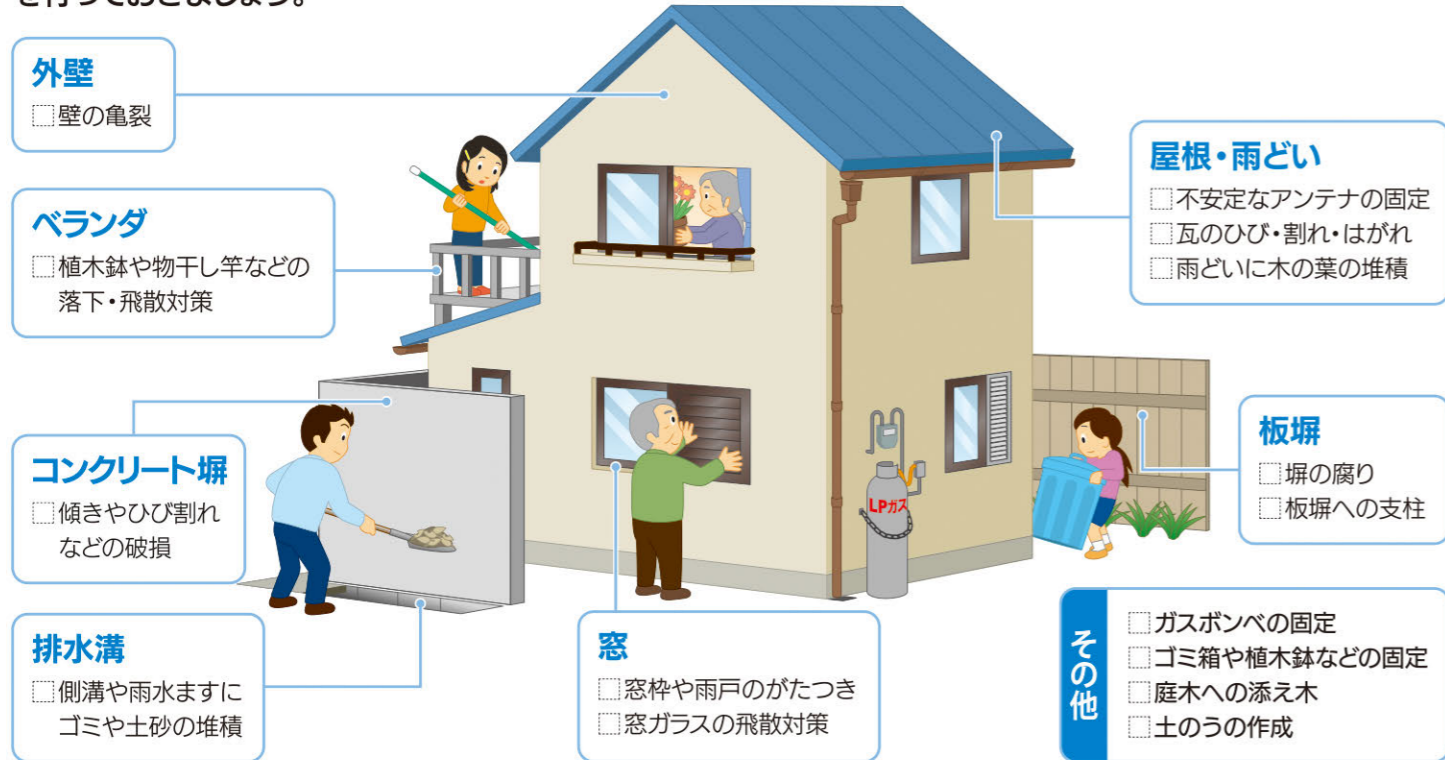


家庭での備え

風水害による建物の被害を抑えるため、下のイラストを参考に、日頃から建物やその周囲の点検・修理・補強を行っておきましょう。



台風時の停電への備え

台風時には被災状況によって停電が長期化することがあります。停電や停電に伴う断水に備えて、懐中電灯、防寒具、飲料水などを準備しておきましょう。



水害が発生した場合、特に注意が必要な場所

地下

外からの浸水で水没する可能性があります。早めに避難しましょう。



地上が冠水すると、一気に地下に水が流れ込みます。



浸水による漏電で、電灯が消え、エレベーターも使えなくなります。



水圧で出入り口が開きにくくなる場合があります。



時間が経てば経つほど地上の様子が分からなくなります。

アンダーパス

鉄道や立体交差などで路面が低くなっているところは、水がたまるおそれがあるので、入らないようにしましょう。

普通自動車の場合、約30cmの浸水で走行困難になります。



市内のアンダーパス・地下道は「地域コミュニティ別ハザードマップ」に掲載しています。

川

急に空が暗くなったり、雷が鳴ったりすると、増水する危険性があるので河原に近づかないようにしましょう。

こんなときは要注意

川の水が増えてきた

雨が降ってきた

雷が聞こえた

急に空が暗くなってきた

遊びに行くときは、川の上流の天気予報もチェックしておきましょう。

風が強いとき・大雨のとき

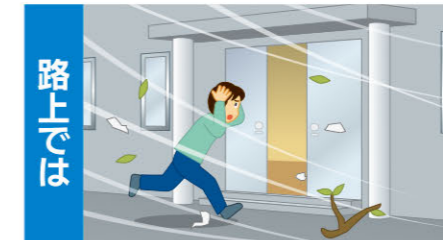
毎年のように台風や集中豪雨によって浸水や土砂災害などの被害が発生しています。しかし、地震と違い、風水害はある程度事前に発生を予測することができます。危険が迫ったら早めに対応しましょう。

▶ **風が強いとき** 近年、台風の大型化や強い勢力を保ったまま、日本列島に接近する傾向があります。



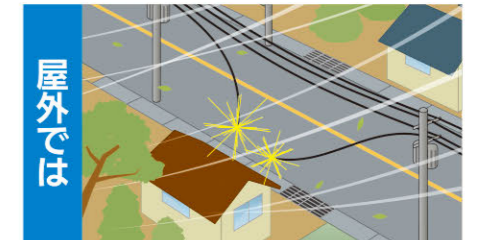
室内では

- 風圧や飛来物で、窓ガラスが割れ、破片が吹き込む危険があります。
- 外側から板で窓をふさいだり、内側から養生テープなどで×印に貼ったり、カーテンを開けておきましょう。



路上では

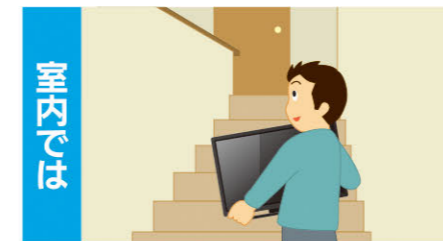
- 看板が飛んだり、街路樹が倒れたりする危険があります。近くの頑丈な建物の中に避難しましょう。



屋外では

- 電線が切れたり、瓦や物が飛んでくる危険があります。安全な建物の中に避難しましょう。

▶ **大雨のとき** 集中豪雨の頻発化などに象徴されるように、昔に比べて豪雨の発生が急増しています。



室内では

- 床下・床上浸水の危険があります。家財道具や貴重品を高い場所に移動しておきましょう。
- 地下には避難しないようにしましょう。



車の運転中は

- 豪雨で視界が悪くなると非常に危険です。あせらずに安全な場所に移動しましょう。
- 道路冠水時、アンダーパスへの進入は非常に危険です。エンストしたときは、車での避難をあきらめ、少しでも安全な場所に避難しましょう。*



河原では

- 急な増水や土石流の危険もあります。速やかに避難しましょう。
- 今いる場所で雨が降ってなくても、ダム放流を知らせるサイレンなどの警報音が聞こえたら、すぐに川岸から離れましょう。

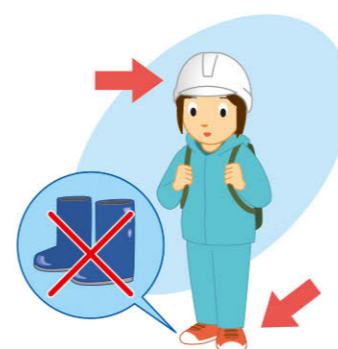
※車の水没時に窓ガラスを割るための脱出用ハンマーを車内に用意しておきましょう



風水害からの避難の注意点

安全な服装で

ヘルメットで頭を保護し、靴はひもで締められる運動靴を履きます。裸足、長靴は厳禁です。



深さに注意

歩行可能な水深の目安は約50センチですが、水の流れる場合は20センチ程度でも危険です。危ないと判断した場合は、無理をせず、高所で助けを待ちましょう。



足元に注意

道路が冠水すると足元が見えにくくなります。長い棒などを杖代わりにして、側溝やマンホールに気をつけましょう。



単独行動は危険

避難するときは2人以上で。流されないように、ロープで互いを結びます。高齢者や傷病者などは背負い、子どもには浮き輪などをつけて安全を確保します。

